

やけのそよ風



No. 7

令和4年6月21日
大阪市立焼野小学校
校長 川辺 智久

「いじめの矢」と心

本校では、子どもたちの間で起こった生活指導上の課題について、毎週、全教職員で共有するようにしています。学級担任だけでなく、すべての教職員で子どもたちを見ていこうという取り組みです。6月に入り、日々の活動や行事などで子どもたちのがんばりがたくさん見られた一方で、友達が嫌がることを言ったり、友達をたたいたり、からかったり、人が見ていないところで相手が嫌がることをしたりするなどの事案がいくつか耳に入ってきました。とても心苦しく、残念に思います。そこで、6月13日（月）の児童朝会で『いじめの矢』と心』を題材に話をしました。



みなさんは、人から「いやがらせ」や「からかい」を受けると、どんな気持ちになりますか。心がとても悲しく、つらい気持ちになりますね。こんな「いやがらせ」や「からかい」がくり返されると、「いじめ」につながります。

- 「いじめ」にはいろんな「矢」があります。
- ・たたいたり、けったりする「暴力の矢」。
 - ・「きもい」「くそ」「死ね」などの「言葉の暴力の矢」。
 - ・人の机やノートに落書きをする、物を隠すなどの「いやがらせの矢」。
 - ・失敗や人と違っていたりすることを笑ったり、また、しゃべり方や人の動きを真似したりする「からかいの矢」。
 - ・その人が来たたらおしゃべりを止めたり、その人をさけたりして一人ぼっちにする「無視や仲間外れの矢」。

矢がどんどん刺さると、とても心が痛いです。

嫌な気持ちになっている友達にやさしい声をかけてあげると、矢がとれます。嫌な気持ちにさせてしまった相手に「ごめんね。」と謝ると、矢はとれます。

でも、矢はとれても「心」に刺さった矢の跡には、穴が開いたままなのです。

人からいやがらせを受けたり、からかわれたりしたことは、「いやな思い出」として、いつまでも心に残ります。

だから、「いじめ」や、いじめにつながる「いやがらせ」や「からかい」はぜったいに許されません。そこで、「いじめ」が起きにくい学級にするために、クラスのみんなでがんばってほしいことがあります。それは、「ていねいな言葉、明るいあいさつができる学級」「約束やきまりを守る学級」「教室がきれいで、整頓されている学級」「みんなの仕事を進んでがんばる学級」「失敗しても励まし合う学級」です。そんな学級になることをめざして、クラスのみんなでがんばることができれば、みんなの仲がよく、「いじめ」が起きにくい学級になるはずです。・・・



「校長室だより」5月27日号にも書きましたが、子どもたちにとって、毎日の学校生活でいちばん楽しく、うれしいことは、友達と仲良くすごせることです。「この学校で、このクラスで、みんなと一緒にすごせてよかった」と思えるよう、子どもたちには、自分のことと同じように相手のことも大事にできる人になってほしいです。

本校では、いじめは「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、子どもたちが安心してすごせる学校をめざして指導・支援を進めています。いじめ未然防止の取組には、ご家庭の協力も必要です。今後とも、お子さまの様子で気になることやご心配なことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。

【2年生校外学習（キッズプラザ大阪）】6月1日（水）



コロナ感染症の影響で昨年度は実施できなかったため、2年生の子どもたちにとって初めての校外学習となりました。みんなで地下鉄に乗ることも初めてでしたが、マナーを守って静かにすごすことができました。キッズプラザ内はグループで行動しました。たくさんの遊具で仲良く楽しく活動することができました。

【1年生校外学習（大阪城公園）】6月3日（金）



小学校に入学して初めての校外活動。午前中は、公園内の大型遊具で思いっきり遊びました。西の丸庭園に移動して、おいしいお弁当を食べた後は、広い芝生の広場で思い思いの遊びを楽しみました。初夏の日差しがまぶしい1日、子どもたちは楽しく元気にすごすことができました。

